



オープンしました。

2018年12月1日(土)、ついに、放課後等デイサービス いっぽ がオープンしました。施設長、事務長を中心に立ち上げ、多くの方々の理解と協力を得てのスタートです。障がいのある子どもたちやその家族、そして、職員が一丸となって子どもたちが安心できる居場所づくりに取り組んで参りたいと思います。これからもよろしくをお願いします。

「いっぽ」名前の由来

人間は生まれたときはみな平等で歩けない。人々がいっぽ歩き出すことによってその人の人生が始まる。そのいっぽを応援していきたい、という施設長の願いから、この施設名をいっぽとしました。

ロゴやイラスト



看板やパンフレットなどに使用しているイラストは、市内のCさんの筆によるものです。施設長の妹さんの友人であった縁で、いっぽのイメージにぴったりのロゴマークやイラストを描いていただきました。特に、パンフレットの表紙を飾るイラストは、自然の中で伸び伸びと育つ子どもたちをイメージしていて、パンフレットを一目見た方の多くから、「良いイラストですね。」ということばをいただいています。ちなみに、ひまわりの花言葉は「あなたを見つめています」です。

いっぽオープンまでの道のり

2017年の11月に代表と事務長が話し合い、障がいのある子どもたちのための施設を作ろうということになりました。その後、2人は、資格取得のための研修や本吉の放課後等デイサービスほっぷでの実習などに取り組めます。2人に手を差し伸べてくれたのは、今は副理事長になっている、ほっぷのBさんです。

その後、施設用への納屋を改築したり、趣旨に賛同してくれる人を探したり、NPOの登記をするなどそれは多くの手間と暇をかけてきました。

最後の難関は、宮城県への事業所登録です。窓口である気仙沼保健所に申請書類を提出したのは、2018年10月31日でした。書類は50ページをはるかに超す大作でしたが、次から次へと修正・追加の指示が入ります。それでも心を折らずに書類を作成し、「登録認可」の電話をもらったのは11月28日でした。

安心してできる居場所に

「放課後デイきょうから障害児サービス いっぽ」

水梨かふえ

「いっぽ」は、障がいのある子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを目的として、市内赤岩四十二80-28に開設された。市内赤岩四十二80-28に「いっぽ」が開設された。市内赤岩四十二80-28に「いっぽ」が開設された。市内赤岩四十二80-28に「いっぽ」が開設された。

「いっぽ」は、障がいのある子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを目的として、市内赤岩四十二80-28に開設された。市内赤岩四十二80-28に「いっぽ」が開設された。市内赤岩四十二80-28に「いっぽ」が開設された。



12月1日の三陸新報で紹介されました。オープン前日の11月30日、三陸新報の取材がありました。事前に各所に配布したパンフレットの成果だったようです。記者に対して熱く語る施設長の熱意が伝わったのか、今日の三陸新報には大きなスペースを取って紹介されていました。この記事のおかげで、日中一時支援の問い合わせが朝一でありましたし、地域の皆さんがお祝いに駆けつけてくださいました。地域の中で生きる子どもたちを育てていきたいという方針のいっぽにとって、地域の方々の理解と応援はとてもありがたいものです。この輪がさらに広がることが期待できるオープン初日になりました。

特技紹介

Aさん

職員の様々な特技を紹介します。第1回目を飾るのは、運転手として利用者の送り迎えを担当するAさんです。Aさんの特技はパソコンです。事務所に大きなパソコンを持ち込み、いっぽのパンフレットを作成しています。特殊なソフトを駆使して微妙な色の補正をして作ったのが、現在、皆さんに配布しているパンフレットです。



【編集後記】

いっぽだよりの第1号をお届けします。毎月1日の発行を予定しています。しかし…残念なことに、子どもの姿がまったく第1号になってしまいました。とにかく、皆さんの理解を得て、利用してくれる方が現れることを切に願います。